

鉄道構造物等設計標準・同解説 開削トンネル 正誤表

「開削トンネル」

頁	章,項	該当箇所	誤	正
61	6 章 6.3	解説(2)(b)地盤の変形係数について	15 行目～16 行目削除 設計に用いる地盤の変形係数 E_0 は、その～を乗じて求めてよい(参考資料 1 参照)。	左記削除文に換えて、次の文を追記 なお、各試験法により得られた変形係数 E_x に乗じる補正係数は解説表 6.3-1 に示す値を用いてよい(参考資料 1 参照)。
〃	〃	同上, 17 行目 式	$E_0 = E_x$	$E_0 = E_x$ を削除
〃	〃	同上, 19 行目 記号説明	: 解説表 6.3-1 に示す試験方法に対する補正係数	左記削除
63	6 章 6.3	式(解 6.3-12)中、G の式	$G = \gamma_t V_{sd}^2 / g$	$G = \gamma_t V_{sd}^2 / g / 1000$
72	7 章 7.3.1	式(7.3.1-1) 記号説明	i: 構造物係数で～(8)による。	i: 構造物係数で～(7)による。
75	7 章 7.3.4	解 7.3.4-1	$Q_s = f_{us} \left(c_s \cdot H' + K_0 \cdot \sigma_{vs}' \frac{H'}{2} \tan \phi_s \right)$ $Q_B = f_{us} \left[c_B \cdot H + K_0 \cdot \sigma_{vB}' \left(H' + \frac{H}{2} \right) \tan \phi_s \right]$	$Q_s = f_{us} \cdot H' (c_s + K_0 \cdot \sigma_{vs}' \tan \phi_s)$ $Q_B = f_{us} \cdot H (c_B + K_0 \cdot \sigma_{vB}' \tan \phi_B)$
111	8 章 8.5.2	解 8.5.2-7	$EI = \frac{1}{30} y^3 \cdot E_{c1} + \left(H - \frac{t_f}{2} - y \right)^2 \cdot (E_j A_j) 10000$	$EI = \frac{1000}{3} y^3 \cdot E_{c1} + \left(H - \frac{t_f}{2} - y \right)^2 \cdot (E_j A_j)$

112	8章 8.5.2	解 8.5.2-7 ~ 解 8.5.2-9 式記号説明 下 7 行目	f_{syd} : 嵌合継手の C 継手の設計曲げ引張 強度	f_{syd} : 嵌合継手の C 継手材の設計引張降伏 強度
138	9章 9.3.1	解説図 9.3.1-11 (b) 図中記号	「 t 」	「 l 」
139	''	上 9 行目	~ 周辺固定の円版として ~	~ 固定の梁として ~

頁	章,項	該当箇所	誤	正
134	9章 9.3.1	解説図 9.3.1-2		
356	参考資料 10-2	参考図 10-2.3 右側旗揚げ寸法	記載なし	33600

「付属資料 掘削土留め工の設計」

頁	章,項	該当箇所	誤	正
174~ 178	4章 4.2.4	式番号	(解4.2.3-2) ~ (解4.2.3-9)	(解4.2.4-2) ~ (解4.2.4-9)
175	"	解4.2.4-3	k_{a1}	K_{a1} 大文字
176	"	解4.2.4-6 分母式2項目	$\sqrt{\frac{\sin(+)\sin}{\cos}}$	$\sqrt{\frac{\sin(+)\sin}{\cos}}$
178	"	解4.2.4-8	P_w	p_w 小文字
"	"	解4.2.4-8~4.2.4-9 記号説明	P_b : 平衡側圧	p_b 小文字
187	4章 4.3.2	解説表4.3.2-1 軸方向圧縮応力度	$\frac{906500}{(\ell/r)^2}$	$\frac{905000}{(\ell/r)^2}$
195	4章 4.3.4	解4.3.4-1 内部摩擦角算定式	$=1.85\left(\frac{N}{v'/100+0.7}\right)^{0.6}$	$=1.85\left(\frac{N}{v'/100+0.7}\right)^{0.6} + 26$
"	"	c)変形係数 下段1行目	~得られる変形係数に解説表4.3.4-2に示す補正係数をかけて求めてよい。	~得られる変形係数 E_x に対して解説表4.3.4-2に示す補正係数を考慮するものとする。
196	"	解4.3.4-3	$E_0 = E_x$	$E_0 = E_x$ を削除
196	4章 4.3.4	解4.3.4-3 記号説明	: 解説表4.3.4-2に示す試験方法に対する補正係数	左記削除
"	"	d)水平地盤反力係数 14行目~15行目	式(解4.3.4-4)により~ ~において, $B=10m$ として	一般には式(解4.3.4-4)により~ ~において, 換算載荷幅 $B_H=10m$ として
"	"	同上, 20行目 解説文追記		なお, B_H の仮定が適切でないことが想定される場合には土木学会示方書 ¹⁾ を参照して k_h を算定するものとする。

頁	章,項	該当箇所	誤	正
197	4章 4.3.5	解 4.3.5-1 分母式 3 項目	$\left(\frac{100}{s} + \frac{0}{s}\right)$	$\left(\frac{100}{s} + \frac{0}{w}\right)$
202	4章 4.4.1	解説表 4.4.1-1 建築学会修正式	$F = \frac{2 \left[\frac{30 + \cos^{-1}\left(\frac{h}{r}\right)}{180} \right] \cdot c}{\cdot H}$	$F = \frac{2 \left[\frac{90 + \cos^{-1}\left(\frac{h}{r}\right)}{180} \right] \cdot c}{\cdot H}$
205	4章 4.4.2	解 4.4.2-2 b の式	$b=0.28-0.0028 \cdot h_w$	$b=0.27+0.0029 \cdot h_w$
219	4章 4.5.2	下 6 行目	$H_p = \underline{\underline{4.2}} H_A$	$H_p = \underline{\underline{1}} H_A$
226	4章 4.5.4	解 4.5.4-3 記号説明 <small>eay</small>	線路を直接支持する場合等は $9250000/(l/r^2)$	<u>列車荷重を直接支持する場合等</u> $905000/(l/r^2)$
"	"	同上	一般の場合 $11100000/(l/r^2)$	一般の場合 $1100000/(l/r^2)$
261	4章 4.7.2	解 4.7.2-5	$Q_a = \frac{1}{F_s} \left\{ 20N \cdot A \cdot \gamma + \left(N_c \cdot A_c + \frac{1}{5} N_s \cdot A_s \right) \alpha \cdot \beta \right\}$	$Q_a = \frac{1}{F_s} \{ 200N \cdot A \cdot \gamma + (10N_c \cdot A_c + 2N_s \cdot A_s) \alpha \cdot \beta \}$
"	"	同上, 記号説明 α	α : 施工条件による定数 (モルタル充填: 0.5, 砂充填: 0)	α : 施工条件による定数 (モルタル充填: 0.8, 砂充填: 0.5)
263	4章 4.8.1	解説表 4.8.1-1 設計強度説明文	解説表 4.3.5-2 , 設計強度は以下を参考としてよい	なお, 設計強度は以下の <u>値</u> を参考としてよい
270	4章 4.8.3	解説図 4.8.3-2 (b) 注入孔の配置寸法		「D (改良径)」
274	4章 4.8.4	上 9 行目	~ コーン指数が 2 以下または ~	~ コーン指数が <u>0.2N/mm²</u> 以下または ~
"	"	同上, 上 10 行目	~ コーン指数が 0.2 以下または ~	~ コーン指数が <u>0.2N/mm²</u> 以下または ~

373	参考資料2	式(2.1)	$b=0.2747-0.002857 \cdot h_w$	$b=0.2747+0.002857 \cdot h_w$
375	参考資料2	参考表 2.1, 鉄道総研提案式	$b=0.27-0.0029 \cdot h_w$	$b=0.27+0.0029 \cdot h_w$
390	参考資料6	参考表 6.1 注3)	砂質土: 25N	砂質土: 2500N